

学校における学力向上に向けた特色ある取組事例について

管内名	天草	学校名	上天草市立阿村小学校
-----	----	-----	------------

1 学力向上に向けた学校全体としての取組

(1) 基礎・基本の明確化と指導の徹底。

- ・事前テスト等による児童の実態の確実な把握。
- ・毎時末の自己評価時の視点とするため、児童のつぶやきや言葉の拾い上げによるわかりやすい学習めあての提示。(下の□内)

【5年算数 単元名：「面積の求め方を考えよう」6 / 13時の展開案】

本時の目標	高さが三角形の外にある場合でも三角形の面積の公式を適用できることを、知っている形に直して面積を求めることで理解する。			
評価基準	考え方：高さが三角形の外にある場合でも、工夫して三角形の面積の公式を適用している。			
主な学習活動	時間	支援と評価 (◎…主、○…副)		備考
		T 1 (兵藤)	T 2 (本田)	
1 本時の問題を知る。	1	◎問題の提示。 「次の三角形の面積を求めましょう。」 ※高さが図形の外にある三角形を提示。	○問題把握の確認。 ○公式 (底辺×高さ÷2) の確認	掲 示 図 形
2 既習事項との違いを考える。	3	◎「前の時間の三角形と違う所はどこですか？」 ・高さがないよ。 ・高さがわからないよ。 ・高さが外にあるよ	○高さはどこか揺さぶりをかける。	
3 本時のめあてを見い出す。	3	◎「では、今日のめあては何ですか。」 ・高さが三角形の外にある時の面積の求め方だ。 ◎めあて (課題) の設定。 「高さが三角形の外にある時の面積の求め方を考えよう。」	○ポイントとなる言葉の拾い上げ支援。 ○めあて把握の確認。	
4 課題について考える。	10	○知らない→知っているを使わせる。評価。	○個別指導。評価。	児 童 シ ー ト
5 考えを出し合う。	15	○発言者の支援。評価。	◎考えを出し合わせる。 ◎知っている形にする方法をいくつか出させる。 ◎高さは、外にあっても公式として使った答えと同じになる事を確認し、T 1に振る。	
6 自分達の言葉を使ってまとめる。	5	◎今日のまとめを作らしましょう。 「高さが三角形の外にある時の面積も、公式を使って求められる。」	○発言者の支援。	
7 練習問題をする。	5	◎練習問題指示。	○個別指導。	
8 自己評価する。	3	◎「今日のめあてに対して自己評価しましょう。」 ・2種類考えたから◎だ。 ・1つ考えたから○だ。	○本時の児童の頑張りに対する賞賛・励ましの言葉かけ。	

(2) TTの活用。

- ・算数TT教師1名 (3年以上は全時間、2年生は週4時間TT指導)、理科専科兼国語TT1名 (特別な支援を必要とする児童在籍クラスへの指導) を中心とした指導方法の工夫。
- ・学年の枠をはずした指導体制の工夫。(習熟度別・コース別学習)

【6年算数「分数のかけ算とわり算を考えよう2」コース別学習14/14時の展開案】

本時の目標	発展：学習内容の深化・発展を図るため、教科書の発展問題、ゆうチャレンジ問題に取り組む。 補充：学習内容の理解を確認するため、習熟問題に取り組む。			
主な学習活動	時間	支援と評価 (◎…主、○…副)		備考
		発展 (兵藤) 総合ルーム	補充 (谷川) 6年教室	
1 本時のめあてを知る。	3	◎めあての提示。 「これまでの学習を生かして問題を解こう。」	○めあて把握の確認。	
2 コース別学習の内容を理解し、自分のコースを決定する。	3	◎コースの内容説明。 ◎コース決定の支援。 ※発展コース選択児童とともに教室移動。	○適切なコース決定への支援。	
3 問題に取り組む。	3 7	◎教科書発展題 P 9 8・9 9、ゆうチャレンジ過去問の中から選択させ、取り組ませる。 ◎大問ごとに持ってこさせる。 ◎採点。個別指導。評価。	◎各種ドリル、習熟プリントの中から選択させ、取り組ませる。 ◎大問ごとに持ってこさせる。 ◎採点。個別指導。評価。	ゆうチャレンジプリント等
4 自己評価する。	2	◎自己評価させる。	◎自己評価させる。	

- ・校長、教頭、養護教諭、栄養職員の専門性を生かしたGT授業。(道徳、学活、体育等)
- ・中学校との連携による、中学校職員の専門性を生かしたTT授業。
- ① 3～6年「総合的な学習の時間」国際理解学習(英語活動)時、担任、ALT、中学校英語教師、計3名によるTT指導。
- ② 6年社会、単元内の1時間での、担任と中学校社会科教諭2名でのTT指導。
- ③ 6年書写、単元内1時間での、担任と中学校国語科教諭2名でのTT指導。

武士の世の中をさぐる 3 幕府の政治と人々の成長 (8時間) 実施時期 7月上旬～7月中旬 (上巻52P～69P)			
【単元の総括目標】 全国が統一され身分制度が確立していったことや、農業技術・町人文化の発達、新しい学問等の広がりや力を付けた民衆の様子をとらえることができるようにする。 【観点別目標】 ① 江戸幕府が260年以上続いたことや、その過程で農民や町人の生活の変化が起こったことに関心を持たせる。 ② 江戸時代の支配体制を、身分制度や外国との関係などとあわせて理解することができるようにするとともに、生産力の高まりによる都市の繁栄や、文化・学問の発達の様子をとらえることができるようにする。 ③ 江戸幕府による政治の仕組みや人々の生活について資料を使って調べ、まとめることができるようにする。 ④ 江戸幕府が大名や武士、民衆に行った政策や力を付けた民衆の行動、新しい学問等を理解できるようにする。 (留意点) ○ 地域素材として下記のような人物を取り扱うことも可能ですので参考にしてください。(島原の乱と天草四郎 幕府の政治と鈴木重成 等)			
月	小単元名	時	学習活動
7	金沢藩の大名行列をさぐる (52～53P)	1	大名行列の様子から、江戸幕府の政治の仕組みや武士、農民町人の暮らしについて調べ、学習計画を立てる。
	家光、大名たちに命じ (54～55P)	1	大名の配置や参勤交代等の大名統制の政策について調べ、幕府が武士に対してどのような政治を進めていたかを調べる。
	鎖国への道 (56～57P)	1	江戸幕府が鎖国に踏み切った経緯や、鎖国下の日本と他地域の交流について調べる。
	江戸時代の道を探ろう (58～59P)	なし	地域で調べてみよう 地域に残る資料館や旧家等を調べて、江戸時代に流通網の整備が進み、人やものの交流が盛んになっていったことを調べる。
	身分ごとに異なる暮らし (60～61P)	1	江戸幕府が農民や町人などのように支配していたかを調べる。
	ときわら都市、花開く文化 (62～63P)	1	江戸や大阪など大きな都市が栄えた様子や理由、新しく生まれた文化などを調べる。
	力を付ける農民 (64～65P)	1	農民の生産力の向上や生活の変化、生活向上を求めた動き等を調べる。
	玄白ら「解体新書」を出版する (66～67P)	1	この時代に新しい学問等が広がってきた経緯や、それらに携わった人の業績や思いについて考え、話し合う。
	まとめ 江戸時代図鑑をつくろう (68～69P)	1	江戸時代の衣食住等、暮らしや文化について、興味あるテーマについて調べて図鑑にまとめる。

第5単元 文字の組み立て方を確かめよう		3時間	P 14
■ 書写の広場			
単元目標	◎文字の組み立て方を理解して書く。		
月	主教材	主な活動事項	漢字
9		・「理想」を見て、文字の組み立て方の特徴を確かめる。 ・「創造」など、ほかの文字の組み立て方で確かめる。 ・文字の組み立て方に注意して、毛筆で「情熱」を書く。 ・「情熱」で学習したことを生かして、硬筆で「腹式呼吸」などの語句を書く。	創 胸 染 腹 呼 吸 割 担 動
	「情熱」(毛筆)		◎「理想」の図示を見ながら、部分の譲り合いに関心を示している。
	「腹式呼吸」(硬筆)		◎「情熱」を見て、文字の組み立て方の特徴を理解している。 ◎ほかの文字の組み立て方についても理解している。
	横書きの手紙(硬筆)	(生活に生かそう) ・横書きの手紙を硬筆で書く。	◎「情熱」を見て、文字の組み立て方に注意して、毛筆で「情熱」を書いている。 ◎文字の組み立て方に注意して、硬筆で「腹式呼吸」などの語句を書いている。
	自作の俳句(毛・硬筆)	(書写は友だち) ・好きな用紙に、いろいろな用具を使って、自作の俳句を書く。	◎「情熱」で学習したことを生かして、横書きの手紙を書こうとしている。 ◎横書きの書き方を理解している。 ◎手紙の書式について理解している。 ◎横書きの手紙を硬筆で書いている。

【学習の約束 ※一部抜粋】

2 話す（発表） 重点：「最後までしっかりと話す」「理由も話す。」		
低学年	中学年	高学年
挙手 ○「はい。」というはっきりした声と同時に、肘をまっすぐ伸ばし手のひらを相手（教師、児童）に向けて挙げる。	○同 ○「似ています。」「付け加えます。」「質問があります。」「他にもあります。」「説明します。」「答えます。」等、発表の内容を示して挙手する。	○同
指名されたら ○「はい。」と元気よく返事をして立つ。 ○意思表示をはっきりする。「分かりません。」「もう少し考えさせてください。」等 ○発言するとき「発表します。」と言う。	○同 ○同 ○同	○同 ○同 ○発言のときは「発表します。」は言わない。
思い考え ○私（ぼく）は～と思います。 ○私（ぼく）は～となりました。 ※要点をズバリ言う。理由は後で付け加える。	○同 ○同 ○私（ぼく）は「・・・」というところは～という感じがします。 ○「・・・」はまるで～みたいです。	○同 ○同 ○同
理由 ○わけは～だからです。 ○～なので～しました。	○同 ○理由を言います。それは～だからです。	○同 ○同 ○～としました。なぜかという～だからです。
賛成 ○私（ぼく）も○○さんの考えと同じです。	○同 ○私（ぼく）も○○さんのように～と思います。 ○☆☆さんの考えに賛成です。それは～だからです。	○同 ○同 ○☆☆さんの考えは、～という考えだと思います。だから私もその意見に賛成です。
反対 ○私（ぼく）は☆☆さんの考えと違います。△△だと思います。	○同 ○私（ぼく）は違うと思います。それは～だからです。	○同 ○私（ぼく）はその意見は違う～と思います。～に～ではありませんね。だから～ではありませんか。 ○☆☆さんは～と言いましたが～が違うのではありませんか。
補足 ○付け加えます。 ○他にもあります。	○同 ○同 ○☆☆の意見に付け加えると～です。	○同 ○同
予想 ○～は～だと思います。 ○私の予想をいいます。～だと思います。	○同 ○～は～でないか～と思います。○私の予想をいいます。～だと思います。	○～のことから私は～と予想しました。
調べた ○～の前から～と思います。○～の前を調べてみると～となつていきます。だから～だと思います。	○同 ○同 ○～の前から～と思います。○～の前を調べてみると～となつていきます。だから～だと思います。	○同 ○同 ○～を見てください。このことから～と言うことが分かります。

- (3) 基本的な課題解決型学習指導過程のパターン化。
- ・あむら学習「つかむ」課題把握、「さぐる」自力解決、「ふかめる」共同解決、「まとめる」まとめの設定。
 - ・ふかめる段階での話し合い活動のモデル化。（国語、算数を中心に）
※下の表は参考資料。
- (4) 学習の約束の明確化と表現力の育成。
- ・学習のための基本型の作成。
 - ・発言の基本型の作成。
※左は参考資料。
- (5) 評価の工夫。
- ・自己評価、相互評価などの多様な評価活動。（ノート、カード等の利用）

【低学年の自己評価シート】



- ・毎時の評価の積み重ねによる評価の信頼性向上。

話し合い活動のモデル	
共通	①とにかく自分の考え・方法を出す。（大いに間違っても結構。） ②出された友達の考え・方法を自分の考え・方法と比較する。 ③比較した結果を加えながら自分の考え・方法を話す。 （～君と似ていて～です。少し違って～です。等） ③自分達でよりよい考え・方法を検討し、練り上げる。 （～君の考えはとてもいいなあ。～さんの考えは間違えにくいけどちょっと時間がかかるなあ。等）
国語科の視点	・児童の考え・意見が広がる、深まる発問を工夫する。 例 6年「平和のとりでを築く」筆者の主張に対する考えを練り上げた後、発問「筆者の主張は誰にでも受け入れられるのでしょうか。」等
算数科の視点	・「いつでも使える」「どこでも使える」、「速い」「簡単でわかりやすい」「間違いが少ない（正確）」を視点を、どの解決方法が能率的なのか話し合う。

- (6) 朝自習の充実。
- ・各種ドリル、百マス計算、音読、視写、辞書引き練習等、児童の実態に応じて変化をつける。
- (7) 家庭学習の充実。
- (8) 漢字・計算大会の実施
- ・毎学期週間を設けて実施している。賞状を渡すなどして意欲化を図る。
- (9) 成果
- ・毎時のめあてを、児童の言葉やつぶやきから引き出し設定することで、児童が自分自身の課題と捉え、学習意欲が高まった。
 - ・特に中学校教諭とのTT指導は、児童の意欲を高め、理解を深めたと同時に、中学校教諭に小学校の授業の様子や児童の実態を理解してもらおうという意味でも大変有効だった。
 - ・全体的に、話し合い活動のレベルアップが図られた。
 - ・特に中位の児童の学力向上が図られた。
- (10) 課題
- ・TT指導を行う際の中学校教諭との打ち合わせ時間の確実な確保。
 - ・家庭学習の取組に対する家庭の理解と協力体制の強化。
 - ・話し合い活動のさらなるレベルアップ。
 - ・低位・高位の児童のさらなる学力向上に向けた取組の充実。